

宮崎県耕畜連携推進マニュアル～概要版～

耕畜連携の意義

近年、輸入依存度の高い肥飼料の価格は、不安定な海外情勢や円安等の影響を受けて高騰しており、農業経営や畜産経営に大きな影響を及ぼしていることから、早期に輸入依存体質から脱却し、地域資源を有効に活用した安定的で安価な肥飼料の確保体制を構築する必要がある。

このため、本県では「耕畜連携」の取組を強化し、耕種農家における飼料用米、稲わら等の生産・供給や、畜産農家における各種畜種由来の堆肥の生産及び圃場への還元等を中心に各種取組を推進し、持続可能な循環型農業の確立に努める。

様々なメリット

飼料用米

- ①畜産農家：とうもろこし等の代替飼料として海外情勢に左右されない安定・安価な飼料の確保
飼料用米を給与した新たな畜産物のブランド化
- ②耕種農家：交付金を有効に活用した安定収入の確保
大規模稲作経営における作期分散や経営リスクの回避

稲わら

- ①畜産農家：安全・安心、安定、安価な地元産稲わらの確保
- ②耕種農家：新たな収入源の確保

堆肥

- ①畜産農家：堆肥供給先の確保、新たな収入源の確保
- ②耕種農家：土壌改良、化学肥料の代替による収量・品質UP、肥料コスト削減

<飼料用米編>

💡 飼料用米の給与方法

・粉砕

粉砕した飼料用米を濃厚飼料の代替として利用（鶏は粉砕不要）

・SGS

粃米を収穫後、破碎処理し、密封し、貯蔵するもの

⇒常温での保存が可能
※カビ・腐敗に注意



💡 生産を始める前の確認事項

- 出荷契約先 J A・集荷業者等をどこにするか
- 品種の選定
地域・作型の適応性、生産者の営農体系との調整、「多収品種」かの確認
- 種子の確保
種子はJ Aや宮崎県主食集荷組合から購入、自家採種する場合は国への事前申告が必要、自家採種した種子の販売及び譲渡は不可
- ほ場の選択
水の確保、ほ場に飼料用米が脱粒する可能性があるため原則として固定
- 出荷形態 粃摺りの有無、フレコン出荷が可能か等
- 乾燥・粃摺り業者との出荷時期等の調整 主食用米等との混入防止

<稲わら編>

稲わら収集作業時の留意点

・乾燥の徹底

稲わらロールの品質を安定させる上で最も重要な要素

・泥噛みの防止

泥が混入すると、カビや腐敗の発生を招く

・異物混入の防止



稲わらの生産・利用を始める前の確認事項

- 必要数量の設定 飼養頭数等から必要量を算出
- 稲わら収集者の明確化
- 稲わら販売先の確保
主な販売方法：①畜産農家へ直接販売、②流通事業者への販売
- 稲わら保管場所の確保
ロールの直径等を確認し、必要保管面積を算出
- 稲わら収集圃場の確保
- 乾燥・糶摺り業者との出荷時期等の調整 主食用米等との混入防止
- 稲わら収集機械等の準備 作業工程で必要な機械を確認
- 稲わら収集規格等の決定
カッティングの有無やロールの大きさを確認

<堆肥編>

良質な堆肥（完熟堆肥）の特徴

- ・色は褐色～黒褐色
- ・サラサラしている
- ・臭気がない

※乾燥するだけでサラサラになる
⇒色と臭いを必ずチェック！



堆肥利用時の確認事項

- 堆肥施用の目的の明確化
土壌改良材として使う場合は、基準量を施用
肥料として使う場合は、必要な肥料成分量相当の堆肥を計算し施用
- 堆肥散布方法の検討
農地の規模や条件に合わせて、機械の必要性や種類、散布受託事業者の活用を検討
- 堆肥の確保
みやざきの堆肥検索サイトを使って、畜種や荷姿等から希望する条件に合致する堆肥を検索・確保
- 堆肥と化学肥料施用量の計算
堆肥施用量計算カルテを使って、施肥基準等の必要な成分量に応じた、堆肥の施用量と化学肥料で補う量を計算



みやざきの堆肥
検索サイト



堆肥施用量計算カルテ

宮崎県耕畜連携推進マニュアル（本冊）には、
飼料用米、稲わら、堆肥の詳細な情報や、耕畜連携の優良事例を掲載
興味のある方はWebサイトで検索

宮崎県 耕畜連携推進マニュアル

検索



お問合せ先

宮崎県農業再生協議会
宮崎県農産園芸課

☎0985-31-2030
☎0985-26-7136

宮崎県農業普及技術課
宮崎県畜産振興課

☎0985-26-7134
☎0985-26-7138